

2026 年度第一四半期決算 ネットカンファレンス

(発言者：鮫島 取締役 兼 執行役常務 グループ CFO)

資料「2026 年度 第 1 四半期 決算の概要」を参照。

説明要旨

- (p.3) 2026 年度第一四半期は、連結業務純益 5,758 億円、親会社株主純利益 4,229 億円といずれも前年同期比で大幅な増益となり、5 月公表の業績見通し対比の進捗率は、各々 35%・32%と好調な決算。東証基準 ROE (直近 12 カ月ベース) は 12.5%へ改善。
- (p.12) 2026 年度業績見通しを上方修正し、連結業務純益 17,500 億円(5 月公表比+1,200 億円)、親会社株主純利益 14,000 億円(同+1,000 億円)。堅調な業績の進捗、先月の日銀による政策金利引き上げを踏まえ、今回の上方修正を決定した。外部環境が大きく悪化しない限り、目標達成への懸念はないという水準ではあるが、中東情勢を始めとする外部環境の不透明感は、引き続き残存しているとの考え。
- (p.12) 株主還元は、期初の公表内容に加え、自己株式取得は 1,000 億円の追加となる 2,000 億円を設定。「総還元性向 50%以上」を目安とする株主還元方針は不変であり、株主還元については、企業の資金需要が旺盛な局面の中、RWA の動向を注視しながら、今後も業績・資本の状況と成長投資機会等のバランスを踏まえて機動的に対応していく。業績見通しの上方修正に伴い、EPS は過去最高値である 551 円を更新する見通しだが、あくまでも通過点であり、更なる EPS 成長を目指していく。

2026 年度第一四半期決算説明

- (p. 3) 経費率は、収益成長が経費増加を上回った結果 47.7%と良好な水準で着地。やや低すぎる水準ではあり、2026 年度通期では前年度の経費率を若干下回る程度での着地を目指している。今後も規律ある経費運営を継続。
- (p.5) 顧客部門では RBC・CIBC の業務純益が前年同期比で各々 444 億円、543 億円の増益となり業績を牽引した。利上げの効果に加え、旺盛な資金需要、活発なコーポレートアクションに伴う投資銀行や不動産等の非金利分野も伸長。
- (p.5) GCIBC における業務純益は前年同期比で減少となっているが、業務粗利益の増加が経費の増加を補いきれなかったことが主因。投資銀行業務が伸びているものの、金利低下局面による預貸収益の減少、マーケット環境の影響を受けたレバレッジドファイナンス等のプロダクツに若干伸び悩みが見られた。
- (p.5) 市場部門では、バンキングが非常に好調で前年同期比で倍以上の業務純益を計上。セールス&トレーディングも好調で、国内外でフィックスドインカム、エクイティ共に伸長。
- (p.6) B/S では、旺盛な国内資金需要などを背景に 2026 年 3 月末対比で貸出金が 3.3

兆円増加した。預金全体では 2.1 兆円減少したが、季節性要因による法人預金の減少が主因であり特段懸念はしていない。新規口座開設数の増加とともに個人預金は増加。

- (p.7) 国内貸出金では、貸出金利の上昇を主因に預貸金利回差の改善は継続。貸出スプレッドは RBC で堅調、CIBC は横ばい。引き続き、スプレッドの改善を目指す。
- (p.8) 海外貸出金は、第一四半期では預金利回り差・貸出スプレッドともに若干の動きはあるものの、トレンドの範囲内であり、いずれもほぼ横ばい。
- (p.9) 非金利ビジネスは好調で、ほぼ全ての部門で前年同期比増加。投資銀行業務が国内外共に好調であり成長を牽引。とりわけ、証券ビジネスの領域では過去最高益を実現。米国における Greenhill 買収の効果が業績に反映されている。不動産、個人運用ビジネスも総じて堅調であった。
- (p.10) 与信関係費用は、61 億円と非常に低い水準に抑制された。中東情勢を含む外部環境の懸念があったものの、第一四半期までの影響は限定的。中東情勢の不透明感が残るものの、フォワードルッキング引当金を 1,650 億円程度積み上げており、リスクへの備えは十分。今後も外部環境を注視し、必要に応じて機動的に対応。
- (p.11) 日本国債の残高は増加しているもの、通常の ALM 運営の中で増加したもので、短期債が中心。また中長期債の残高は増えているものの、残存期間が非常に短いものが中心となっており、平均残存期間は 0.8 年。慎重な運用方針は不変。
- (p.11) 政策保有株式売却の第一四半期実績は限定的であるも、売却交渉は着実に進展しており、応諾済み分も含めると今後の削減と売却益は当初想定通り。
- (p.13) グループ会社別業績は、BK 単体が前年同期比で大幅に増加しているが、子会社からの配当約 2,000 億円という一過性要因を含んでいる。こうした要因を考慮後でも、好調な推移。